



わが進明

校訓：明るく 正しく たくましく

福井市進明中学校
学校だより 第14号
令和元年10月23日
TEL (0776)20-5128
FAX (0776)20-5129

URL <http://www.fukui-city.ed.jp/shinmei-j/>

○地区中学校秋季新人総合競技大会開催

10月4日（金）から6日（日）まで、福井地区中学校秋季新人総合競技大会が開催されました。新しいキャプテンのもと、これまで練習に取り組んできた成果を試す大会となりました。本校は、女子バドミントン部が4年ぶりの優勝をかけて決勝で工大附属福井中と戦いましたが、惜しくも敗れ準優勝に終わりました。個人戦では、工谷羽音（2年）さんが総合シングルスで第2位、同じく総合ダブルスでは塚谷春花・田淵留亜（1年）さんペアが第3位に入賞しました。また、女子バスケットボール部は、準決勝で優勝した成和中に敗れたものの見事第3位に輝きました。

惜しくも入賞を果たせなかった部はたくさんありますが、『秋・冬越えて、春が来る』と言われるように、この秋から春にかけ、何が足りなかったのか、結果につながる練習は何か、もう一度普段の練習を見つめ直し、次の大会を目指し頑張ることを期待します。



団体準優勝の女子バドミントン部



決勝進出をかけて成和中と戦う女子バスケットボール部

○心を磨く交流・体験会 ～永平寺中学校に行ってきました～

清掃活動先進校である永平寺中学校において清掃活動体験や生徒間交流を行うことで、主体的な清掃活動への取組や自律心の向上を目指すという目的で、10月11日（金）に「心を磨く交流・体験会」が開催された。本校からは、後期生徒会会長・副会長と後期環境整美委員の1・2年生の計15名が参加した。本号では、この交流・体験会に引率者として参加した近藤愛美教諭（環境整美委員会担当）の報告レポートを掲載します。

永平寺中学校到着後、まずは体育館で校長先生、清掃担当の先生より永平寺中学校の清掃について説明を受けた。清掃をするにあたり、「あたりまえをひたむきに」ということを大切にしていること、掃除の時間は掃除に集中し、「無言清掃の徹底」「床を磨くことで自分の心を磨く」「感謝の気持ちを持って清掃する」「汗が出るくらい体を動かす」というポイントを意識して清掃をしていることの説明があった。雑巾の使い方について、校長先生からのお話で、「市販の雑巾では水を含む量が少なく、途中で拭きが甘くなってしまう。」という言葉があった。「タオルを2回折って使うと、ひっくり返したりたたみ直したりして長く雑巾がけをすることができる。」という使用するものにまでこだわる姿勢がとても印象的だった。



6 時間目終了のチャイムが鳴り、清掃前の音楽が流れ始めた。体育館で待機していた進明中の生徒を迎えに来た永平寺中学校の生徒たち。清掃前の黙想に遅れないようかなり急いでいる様子だった。生徒たちを追いかけて2階へ上がると、2年生の教室が並んでおり、すでに準備をした生徒が正座で黙想の準備をしていた。本校の清掃前とは異なり、「掃除の準備をしましょう」「今から黙想タイムを始めます」といった放送による指示は一切無く、音楽の変わるタイミング、音楽の止まるタイミングで次の行動へ素早く切り替えていた。各清掃場所の班長が「これから清掃を始めます」「お願いします」の言葉を最後に、声を発する人は一切いなくなった。清掃中は音楽も流れることなく、校内に響くのは「雑巾がけをしている生徒の靴が床とこすれる音」や「机を動かす音」、「洗面所で水が流れている音」などの清掃する音のみであった。



教室掃除をのぞいて見ると、そのスピード感到に圧倒された。一回一回の雑巾がけのスピードが速く、進明中の生徒が完全に置いてきぼり状態になっていた。あっという間に縦拭きが終わり、横拭きが始まった。横拭きでもそのスピードは落ちない。しかも丁寧。しっかり一段ずつ下げながら隙間無く拭き上げており、ここでも進明中の生徒が遅れていた。雑巾がけの後のゴミの始末には工夫があった。ゴミ箱を雑巾がけのゴール地点に運び、ゴミ箱の中で雑巾を振ってゴミを落としていく。これにより最後にゴミを集める必要が無く、従ってほうきの担当がいらない。ほうきを持っていたのは、教員だけであった。机の移動でも、面白い工夫があった。運ぶ前に机を持ち上げたらくるっと向きを変えて、前向きに進んで机を運び、そのまま置いていく。こうすることで、机と机の隙間を詰めようと一度床に置いて引きずるということが起こらず、最後まで持ち上げたまま運ぶことができる。その後机を戻すときには再度持ち上げてくるっと反転し運んでいくことで、元の向きで机が並んでいく。この方法は是非取り入れたいと感じた。その方法がわからず、後ろ向きで運ぶ進明中の生徒に気づいた永平寺中の生徒が、ジェスチャーでそれを伝えていた。言葉は全くない。身振り手振りでも素早く指示をする姿が印象的だった。

清掃終了 5 分前に音楽が流れ、「プラスアルファの清掃」が始まった。教室の隅や窓枠など各自で気がついたところを掃除し始める。声かけはない。役割が決まっているのか、窓締めやバケツの水捨てなど仕事を終えた生徒から廊下で正座をし始める。そして全員がそろそろ頃に黙想が始まる。このとき、教員も一緒に正座をして黙想をしている様子は大変印象的だった。黙想後、反省会。班長がメンバーに「今日の清掃はどうでしたか？」と聞き、当てられた生徒が答える。最後に班長が感想（反省）を言って「ありがとうございました」で清掃が終了した。

清掃終了後に体育館に戻ると、体育館掃除を体験した生徒が「体育館を雑巾がけしたら足がとれそうになった。」「永平寺中の生徒たちが早すぎて追いつけない。」「ずっと走っていてすごかった。」と少し息を切らしながら感想を言ってきた。体育館清掃はかなり衝撃的だったようだ。

生徒間交流が始まると、まずは進明中学校の取り組みの紹介が生徒会執行部よりあった。真剣に聞きながらメモをとっている永平寺中の生徒たち。自分たちの学校にも活かしていきたい気持ちが強くなってきた。その後、3つのグループに分かれての意見交換ではC班の様子を見ていた。まず清掃を体験した感想を発表し、「雑巾がけが速い。」「黙働が徹底されている。」「隙間無くやっているのがすごい。」「汗をかけた。ハードだった。」といった意見が出ていた。正直者の福島さんは「進明中でも黙働清掃をしているが、徹底されていなくてしゃべっている人がいる。」と暴露してしまっていた。次いで見谷君も「昼休みと清掃の区別がついていないことがある。」と暴露してしまう。その後、質問タイムになり、江守君が「しゃべりたいと思わないんですか？」とストレートに聞いた。すると永平寺中生は「一人だけしゃべっていると恥ずかしい。」とはっきりと答えてくれた。また「掃除は何のためにしていると思いますか？」という質問に、「しゃべってはいけないので、相談せずに清掃をするから、自分で考えて動く力がつくと思う。」と力強く話してくれた。生徒の自主性・自立する意識が根付いていると感じた。ほかにも永平寺中の生徒から進明中の生徒に質問をしたりしながら、あっという間に交流会の時間は過ぎて、終了の時間となった。



最後に環境整美委員長の福島さんから「今回体験して学んだことを進明中でも活かしていきたい。」と強く語ってくれた。永平寺中の生徒からも「是非、学校でも活かしてってください。」とエールを頂いて、心を磨く交流・体験会は終了した。（文責：近藤愛美）